特集 温故知新！伝えよう二宮の魅力・想いを

『温故知新』。昔のことを良く調べ、新しい知識や現実にふさわしい意義を見出していくことだと思います。昔のことには、年月をかけて受け継いできた先人の知恵、自然観が反映されています。

現代に生きる私たちは目先の経済性、効率性を追い求めるばかりに地域の個性、魅力をおざなりにしてきたのではないでしょうか。町の中で昔のことを伝えている取組みを紹介し、そこに新たな意義を見出し、地域の魅力・想いを伝える足掛かりになればと思います。

☆雅楽を伝えて

川勾神社の雅楽は、皇紀二六〇〇年を記念して昭和十五年から氏子有志によって受け継がれてきました。戦後一時中断し、昭和四十一年から雅楽保存会として復活して現在に至っています。

雅楽は宮廷、寺社の儀礼・祭礼における正式な音楽。日本古来の歌と舞、古代アジア大陸から伝来した音楽と舞が日本化したもの等の総称で、日本の最も古い古典音楽です。現存する合奏音楽としては世界最古とも言われています。

現在川勾神社雅楽保存会は、二十代から六十代のメンバーで構成され、毎月一回練習に励んでいます。笙・篳篥・龍笛などの楽器はそれ自体美しい音を出すことが難しく、それらを合わせて、その幽玄で気品のある調べを出すのはさらに難しいそうです。

川勾神社雅楽保存会の練習風景

この川勾神社の雅楽が披露されるのは、一月に歳旦祭、吾妻山よそこいパレード、二月に節分祭、五月に国府祭、十月に例大祭、民族芸能のつどい、十二月に城山公園のもみじのライトアップです。ぜひ、悠久の時を流れる美しい音楽を美しい風景の中で聴きたいものです。そして、それが二宮の魅力につながっていったらよいと思います。

ぜひ、若い世代に雅楽の魅力を伝え、引き継いでほしいです。現在、若手後継者を募集しています。

☆一色分校の思い出を伝えて

人々の記憶は移ろいやすく、歴史的事実は伝えていかないと消えてしまいます。

今年完成した一色防災コミュニティセンターの正面玄関の壁に「旧一色分校跡」と題したプレートが設置されています。一色分校の沿革と歴史年表、そして震災後の一色分教場と一色小学校発祥の地となった当時の分校校舎の写真が掲載されています。

一色分校には百年近い歴史があり、当時の一色地区の人たちみんなが小学四年生までを過ごした思い出の地である事を、若い人たちや今の子どもたちに伝えていきたいという想いから、一色地区会と昭和十九年分校四年修了生有志が設置しました。

一色分校の沿革や歴史年表は、今まで一覧でまとめたものがなかったので、二宮町郷土誌、二宮町史等様々な文献に掲載された断片的な記述を調べて、ひとつにまとめたものを作成しました。夏祭りや盆踊りの時には、多くの人たちの目にふれ、一色分校の歴史がこんなにあったのかと再認識する人もあり、反響をよびました。

今後はぜひ、その当時の一色の子どもたちがどんな遊びや生活をしていたのかを調べ、それらを今風に再現し、現代の子どもたちに伝えていくことができたらよいなと思います。

☆地域ブランドづくり「風と星物語」を進めて

地域ブランドづくり「湘南♡風と星物語」は、物語性のあるまちづくりを進めたいと、「しお風」が呼びかけて商業者、農業者、事業者等の有志が季節の行事を取り入れた「しつらい」で表現し、取り組んでいます。

今年度は二宮町一色地区の魅力を再発見する場にもなればと、「七夕おもてなしの会」を八月八日（土）に、農家の古い建物を保存したふるさとの家で実施しました。

昼の部は親子連れ向け、夜の部は大人向けでしたが、意図した「七夕行事が人々の食や暮らしと結びついて行われてきたこと」「季節と共に生きるという視点から今の食や暮らしを見直しながら、一色地区の特徴である農業・商業・里山が共存する魅力を伝えること」ができたと思います。

当日の食材にも利用した摘果みかんは、様々な料理に使え、みかんハチミツでつくったミカネードはとても美味しくて、好評でした。親子連れや青少年向けにみかんの摘果等をプログラムした夏休みおもしろ体験、地域で行われてきた風習や行事を参考にした癒しの異空間体験を企画し、新たな魅力を醸し出していきたいと思いました。

一色地区は広くて地域探検が思うように進みませんでしたが、それでも魅力のカギとなるものをいくつか発見しました。それをwalkwalk（ワクワク）マップにまとめ、一色地区の特徴である農業・商業・里山が共存する魅力を伝えたいと思います。十一月に配布する予定ですので、お楽しみに。

また十月十一日に開催する葛川秋の大収穫祭に「月待ちのしつらい」をテーマに出店します。収穫の恵みを自然に感謝し、地場野菜をふんだんに使った秋の彩りべんとう・小じゃが串揚げ・実りのリース等を展示即売する予定です。

さらに、収穫祭と収穫をテーマにしたバスツアーも企画します。

昨年の収穫祭での「月待ちのしつらい」の一部分

青少年に二宮の魅力やみなさんの想いを伝え、青少年も一緒になって地域の人も経済も資源も連携、循環するしくみをつくれたら。町内はもちろん町外の多くの人を魅了する地域に二宮が成長するようになれたらと思います。